

# この子らと

令和7年2月号

## 命輝く子ども



リハーサル風景

わくわく鹿児島中央認定こども園



園長 川口公男

“発表会は、子どもたちが成長した姿を披露し、観客のみなさまと成長の喜びを共有する場です”

認定こども園での5年間の中で、幼児教育が最終的に向かっていく方向として「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」(10の姿)が示されました。

【10の姿】とは、①「健康な心と体」、②「自立心」、③「協同性」、④「道徳性・規範意識」、⑤「社会生活との関わり」、⑥「思考力の芽生え」、⑦「自然との関わり・生命尊重」、⑧「数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚」、⑨「言葉による伝え合い」、⑩「豊かな感性と表現」です。



10の姿は、日々の教育・保育を通して、総合的に育まれていくものですが、「発表会」では、10の姿の中で、主に、自立心(独り立ちして)・協同性(みんなで力を合わせて)・表現力(言葉・表情・身体を使って伝える力)等の育ちを保護者のみなさまと共有する場になると考えています。

“ただし、子どもたちはつまずきの天才であることをお忘れなく!”



“失敗・つまずきは、成長の糧”  
成長するために役に立つ大切な体験です。

### 年長ぞう組の子どもたちは一足先に小学生

1月24日、西田小学校との交流がありました。交流は、本園と小学校とにそれぞれにメリットがあります。

- 本園の子どもたちには、小学校の施設や小学生・先生方が身近に感じられるようになります。
- 小学生には、子どもたちとかわかることで自分の成長を感じたり、交流活動をやり遂げる達成感を味わうことになります。



1年生担任の先生の国語の授業に参加したり、小学生による読み聞かせがあったり、椅子取りゲームを楽しんだり、最後には、手作りのメダルを掛けてくれました。西田小学校一年生の子どもたちと担任の先生の温かい交流計画は、子どもたちの心に期待と希望の光を灯してくれたと思います。

### 光の春

今年の立春は、2月3日です。立春の頃の季語が「光の春」です。その前日が節分、恵方は、西南西。



春の始まりとはいえ、まだ厳しい寒さの中に注がれる、太陽の光は春を感じさせてくれることから「光の春」と言われています。

2月の俳句

「雪解けて 村いっばいの 子どもたち」  
「明日からは おためし保育 春の雪」  
「豆をまく園児 先生 鬼となる」